

# Q 行財政改革一層の推進 A 村独自策で着実な実施



山谷 仁 議員(新志会)

**Q1** 世界の金融・経済危機を迎えている。とりわけ雇用の確保が緊急の課題であり、いち早い政治の対応が期待されています。滝沢村のこれからの行財政改革と20年1月に策定した、加速アクションプラン事業を推進しながら無駄を省き財政基盤を強化するものであるが、その実行



美しい景観と静かな環境が人気の「お山の湯」

と進捗状況と「お山の湯」の方向性を伺います。

**A1** 中期財政見直しにおいて村債残高は15年度の182億円をピークに漸減しており、現在166億円程となっております。現在の不安定な経済情勢下では、村税や交付税等の一般財源の将来を見込むことは困難であり、新規事業を実施するためにも、行財政改革は必要不可欠なものと考えており、国の指針により策定したプランに加えて、加速アクションプランを策定しました。

17年から19年度までの経費節減等の財政効果は計画値4億4千7百万円に対して4億8千万円の節減、率で107.4%となっております。「加速アクションプラン」の策定により、24年度までに6億2千3百万円の削減を計画しております。

「お山の湯」については、継続を求める要望が高く、改善の取り

組みをしながら、指定管理者と共に改善の努力をいたします。

## 給食センターからの配食は

**Q2** 学校給食センターの空時間等を利用し独居老人等への配食はできないのか伺います。

**A2** 年間計画で実施している関係上、現時点では配食サービス等については非常に難しいのではないかと考えています。

各種審議会の議事録公表を。

**A3 Q3** 総合計画審議会はか多数有りますが、殆んどが公表可能であることから今後基準を設けて公表してまいります。

## 信条や抱負をざっくばらんに話してもらいました。

司会・熊谷初男  
議会広報副委員長

### ■議員になるきっかけと抱負は

**相原** 人口が増加する中で、高齢者と子どもたちへの政策が中々見えてなかったことで、通学路の道路整備などの環境整備が必要と思って議員になりました。また、村の北部地域の整備が遅れている面があったので、北部に目を向けてほしいとの思いもありました。



**桜井** 地域の人々に応援され、また、党からの勧めがあったからです。そして、国の政治も末端の弱い人が苦しめられ、社会的に厳しい状況にある村民のためにがんばろうと思ったからです。そのほかには、農業・農家が大変で、農家の中核が減少している中で、自分ができることでがんばりたいという思いもありました。



**斉藤** 前議員の退任で、地域の議員として貢献できればとの思いがありました。また、地域のライフラインや少子化などの課題に取り組みたい思いもありました。会社勤めのときは、行政には新たなな

の取り組み姿勢が見えなかったので、PDC Aによる新たな事業の取り組みの思いがありました。



**武田** 党の要請で議員になりました。基本は国の政治を変えることで、底辺にいる村民が安心して暮らせる村づくりを、というのが思いです。

最初の議員研修で議員の権利である一般質問は最大限活用すべきだということ学び、村民の声を聞き、村政に実現したいということも議員としてがんばる気持ちになりました。



**川原** 平成3年から議員です、3点考えています。

一つは、村に住みたい・住んでよかったと思える村にしたいです。もつと福祉・教育を充実させたいですね。二つめは、小岩井地域と行政の架け橋にと考えています。三つめは、会派に入ってもませんが、議員の任務はチェックと政策を提言することに尽きると考えています。



### ■村の課題と解決への抱負は

**川原** 3点あります。1点目は、老人福祉の問題です。高齢化率が15%と低く

なっているが、20%を越えると行政対策の手が打てなくなるので、20%を超えていない今のうちに将来のルールを引いておくことです。

2点目は、これまでも議運委員長として議会の改革は行ってきたが、もつと改革を進めて滝沢村議会は違うといわれたと思っています。

3点目は、開発する地区と自然を残すところとメリハリをつけて、リトル盛岡にならないように提言していきたいと考えています。

**武田** 村民の暮らしを守る立場から、次の2点を考えています。まず福祉です。少子化対策として、保険証がないとか、お金がないために病院にいけない事はないようにするなど子どもの医療は守らなければなりません。高齢者・障がい者対策も、保険料や利用料負担の軽減が必要

です。もう1点は、元気のある村づくりです。農業を中心とした産業の活性化と、商工業などへの支援などに村としての独自の支援をすべきと考えます。

**斉藤** 3点について考えています。1点目は、少子化対策のため子育ての環境づくりが必要で、健康で活力ある村づくりです。健康維持の重視からスポーツ振興と予防に主力をおくべきと考えます。2点目は、耕作放棄地の解消など農業の振興、県に貸した相の沢の環境の再起が大事です。3点目は、盛岡を中心に考えるときに、北東北の拠点として50万都市として

村の位置づけを考えなければならぬと考えています。

**桜井** 国の三位一体改革で、本来増やすべき福祉・教育の予算が減ってきています。政治の中で、弱いところに財政の組み方を変化させていくことが大事です。村においては、事業と財政を一体に考え、弱いところの福祉は起債しても守ることが必要で、そういう方向に持っていきたいと考えます。

**相原** 産業振興と雇用場の確保が生活の基本であり、それが成り立たないゆえに少子化の解消になっていない。農業では後継者がいないなか、新たな農業を考えるうえで担い手を考えるべきです。

地域の格差をなくすインフラの整備、子育てしやすい環境の充実、それに悪臭や不法投棄などの環境問題も大切であり、取り組みで行きたい。また、ゴミの削減も考えるべきであると思います。



【出席者】(左から)斉藤健二・川原清・熊谷初男・相原孝彦・武田猛見・桜井博義